

平成 29 年 7 月の解説（府県天気予報）

【7 月の天候状況】

上旬は、旬のはじめは梅雨前線が日本海に停滞し、暖かく湿った空気が流れ込んだため、東日本日本海側を中心に大雨となり、土砂災害や浸水害などが発生しました。台風第 3 号が、2～3 日に先島諸島に接近し、4 日に長崎県に上陸した後に西日本から東日本へ進んだ影響で、大雨や暴風となったところがありました。旬の後半は西日本へ南下した梅雨前線の活動が活発となったため、5 日の日降水量は福岡県朝倉で 516.0mm、大分県日田で 336.0mm、島根県波佐（はざ）で 320.0mm を観測するなど、5～6 日は西日本日本海側を中心に記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫などにより甚大な人的被害が発生しました。北日本は西から暖かい空気が流れ込みやすく、旬の後半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、北日本の旬平均気温はかなり高く、北日本太平洋側の旬間日照時間はかなり多くなりました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。

中旬は、北日本に前線がかかる日もありましたが、前線の活動は弱く、晴れた日が多くなりました。東・西日本と沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、東・西日本では寒気を伴った気圧の谷や梅雨前線の影響で雨が降った日もあり、激しい雷雨や突風となったところもありました。九州南部では 13 日ごろ、関東甲信、東海、近畿、中国、四国では 19 日ごろ、九州北部では 20 日ごろに梅雨明けしました（速報値）。北・東・西日本では晴れて日射が強く、また西から暖かい空気が流れ込みやすかったため気温がかなり高くなり、各地で真夏日や猛暑日となりました。

下旬は、梅雨前線が北陸地方から東北地方付近に停滞しやすかったため、旬降水量は東日本日本海側でかなり多く、北日本で多くなりました。23 日には秋田県で雄物川（おものがわ）などが氾濫し、24 日には新潟県佐渡市で記録的な大雨を観測するなど、各地で大雨となりました。九州付近から沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われやすかったため、西日本と沖縄・奄美の旬平均気温はかなり高くなりました。東日本では梅雨前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、東・西日本では大気の状態が不安定となって雷雨となったところがありました。

月平均気温は、北・西日本でかなり高く、東日本と沖縄・奄美で高くなりました。月降水量は、東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった一方、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なく、北日本太平洋側と西日本日本海側で平年並でした。月間日照時間は、北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側と東日本太平洋側で多く、東日本日本海側と西日本、沖縄・奄美で平年並でした。

【7 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 80%で例年値（注）と等しく、明後日予報は 77%で例年値より 2 ポイント高くなりました。地方別の適中率では、明日予報は北日本と関東甲信、北陸、沖縄の各地方で例年を上回りましたが、東海地方と西日本の各地方では例年以下となり、特に近畿地方では例年値よりも 9 ポイント低くなりました。明後日予報では、北日本と関東甲信、北陸、中国、九州北部、沖縄の各地方では例年を上回り、特に北陸地方と沖縄地方では例年値よりも 9 ポイント高くなりました。一方、東海や近畿、四国、九州南部の各地方では例年を下回りました。

明日の最高気温の予報誤差は全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.6 、最低気温の予報誤差は全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.0 でした。最高気温と最低気温の予報誤差は、どちらもすべての地方で例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の天気予報の利用にあたって】

9月は、強い勢力の台風が接近・上陸しやすい月で、前線が停滞していると台風がまだ遠くにある頃から大雨となることもあります。また、1年のうちでも天文潮が高い時期のため、台風が接近すると高潮による被害が大きくなることもあります。これまでに日本に大きな被害をもたらした台風の多くは、9月に日本に接近・上陸しています。

台風が日本付近に接近すると予想されている場合には、最新の台風情報や警報・注意報など気象情報に十分留意して下さい。